

長野県知事 様

令和元年度 長野県産業廃棄物3R実践協定 実施結果報告書

下記のとおり、産業廃棄物3R実践計画の実施結果報告書を提出します。

協定期間	令和元(平成31)年度～令和3年度	
会社名	セイコーエプソン株式会社 諏訪南事業所	
住所	〒399-0295 長野県諏訪郡富士見町富士見1010番地	
代表者名	総務部長 山田 誠 印	
業種	製造業 ・ 建設業	
処理施設 所在地 (処理施設を有する場合)	施設名	所在地
	/	
担当部署	総務部/諏訪南・施設	
担当者名	綿貫 剛士	
連絡先	TEL	0266-62-6622 (代) 0266-62-8370 (直通)
	FAX	0266-62-6653
	電子メールアドレス	watanuki.tsuyoshi@exc.epson.co.jp

1 目標達成状況

(1) 総排出量に関する達成状況

※計画策定時に採用した指標で記入してください。

① 総排出量 (t kg 又はm³※採用した単位に○) / 事業所出荷額 (円)

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
令和元年度目標値	令和元年度実績値	平成30年度実績値	平成29年度実績値
0.000034251	0.000054047	0.000034194	0.000045629

② ①以外の指標

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
年度目標値	年度実績値	年度実績値	年度実績値
/		/	

(2) 廃棄物処理（リサイクルしたものは除く）に要した費用に関する達成状況

廃棄物処理（リサイクルしたものは除く）に要した費用（円）／事業所出荷額（円）×100（％）

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
令和元年度目標値	令和元年度実績値	平成30年度実績値	平成29年度実績値
—	—	—	—

(3) リサイクルに要した費用に関する達成状況

リサイクルに要した費用（円）／事業所出荷額（円）×100（％）

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
令和元年度目標値	令和元年度実績値	平成30年度実績値	平成29年度実績値
0.206051%	0.308678%	0.206051%	0.241343%

(4) リサイクル率（％）

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和元年度目標値	令和元年度実績値	平成30年度実績値	平成29年度実績値
汚泥	100	100	100	100
廃油	100	100	100	100
廃酸	100	100	100	100
廃アルカリ	100	100	100	100
廃プラスチック類	100	100	100	100
木くず	100	100	100	100
金属くず	100	100	100	100
ガラス・コンクリート及び陶磁器くず	100	100	100	100
感染性廃棄物	—	—	—	100
P C B 汚染物	—	—	—	—
廃石綿等	—	100	—	—

(5) リサイクル製品使用率（％）

製品（材料）種別	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和元年度目標値	令和元年度実績値	平成30年度実績値	平成29年度実績値
無し	0	0	0	0

*リサイクル製品使用率＝リサイクル製品（材料）使用量／全体材料使用量（％）

2 産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理の方法等に関する情報公開実績

<p>・公開実績なし (要望があれば地域、住民などに情報公開を行なうことにしている)</p>

3 産業廃棄物処理施設の地域への公開実績（処理施設を有する場合のみ）

施設の名称	施設公開状況			
	日時	対象者	人数	内容

4 処理を委託した処理業者（施設）の現地確認実績

区分	廃棄物の種類	現地確認結果（確認回数、確認日、確認状況等）
中間処理場	各種	エプソングループ全社主管部門の計画に基づき、各事業所で分担実施。 当事業所の実施なし
最終処分場		実施なし

5 従業員教育（研修）実績

実施月日	対象者	実施内容
2019/5	新入社員	受入教育の中で事業所の廃棄物管理、分別ルール説明
2019/6/中旬～ 8/末	全従業員	社内教育用webによる環境基礎教育受講 (2019年度版)

6 リサイクル促進に向けた取組み実績

<p>リサイクルの高次元化（有価物化、リユース化、原料化）の促進</p> <p>① 不用機械及び廃油などの有価物化；計 41.2 t (内訳；金属くず20.9 t、廃油14.8 t、廃プラ2.9 t、ガラスくず2.6 t)</p> <p>② 製造工程で使用後の強酸を自社排水処理工程で中和に再利用；43.9 t</p> <p>③ 搬出後、処分先に引火性廃油の一部を有価物として売却。86.41 t</p> <p>④ 廃棄物の処分先は全て高次元リサイクルが可能な業者に継続し処分委託。</p> <p>⑤ 不用となった備品等を他職場で有効利用し廃棄物量を削減。</p> <p>⑥ 一般廃棄物も有価物化（紙類；19.5 t）、堆肥化（社員食堂残渣；11.4 t）</p>

7 処理を委託した廃棄物について、不法投棄・不適正処理が生じた場合の排出事業者としての
取組み実績

該当事項なし

8 他の不適正処理が生じた場合の協力実績

該当事項なし

9 その他独自に取り組んだ事項についての実績

※環境認証制度等の取得*、電子マニフェスト(公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター)
の導入等を含む。

- ・電子マニフェスト利用率；100%
- ・ISO14001認証（平成11年4月取得）とEMS（環境マネジメントシステム）の活用による廃棄物発生量抑制の推進と啓蒙活動の継続実施。
- ・使用職場から廃棄物として出された金属くず及び廃油などを積極的に有価物化し廃棄物量の削減を継続実施。

* 環境 ISO 14001、エコアクション 21 等